

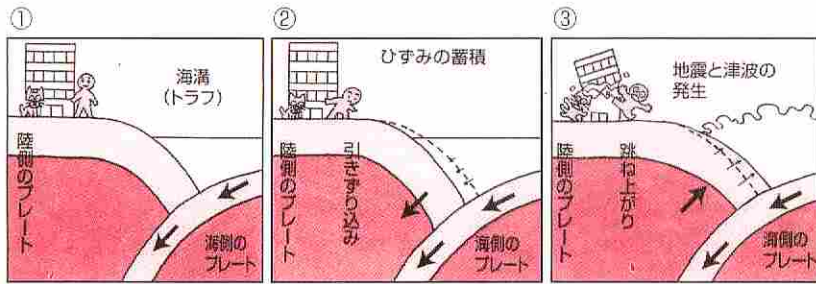
災害から身を守るために

vol.6

「いざ」という時に…津波編(PART2)



～地震と津波が起きるしくみ～



(文部科学省作成「大地震のあと、余震はどうなるのか」より)

津波とは？
 海底で起こる地震や地滑り、海底火山の噴火、沿岸の地滑り、いん石の海洋への落下などにより、海水が変動した波が「津波」ですが、主に海底地震によって発生します。

○**海底地震による津波**
 日本海溝付近の「太平洋プレート」(海側)は、「ユーラシアプレート」(陸側)の下に一年間に約五から十センチ程度の速度で沈み込んでいます。上部のユーラシアプレートが下部のプレートの沈み込みによって曲げられ、上部のプレートの岩板がもつ力が増え、加えられる力に耐えきれなく

今回は、津波編の二回目として、津波が発生するしくみなどについてお知らせします。

なったときに破壊が起き(断層運動)、その破壊によって起きる揺れが地震であり、曲げる力から開放され、跳ね返る海底地盤の変動が、その上の海水を変位させることにより生じる波を津波と言います。

通常は、地震の揺れと津波の大きさは比例関係にあります。明治の三陸津波の時のような「津波地震」と呼ばれる地震は、揺れが小さくても大きな津波が発生させます。

津波の顔はいつも違う

津波が来襲する時、海底の地盤変動の仕方などによっては、押し波から始まったり、引き波から始まったりします。また、海岸の地形によ

って、徐々に水位が上昇する津波や、急激な波の壁になる津波など、津波の顔はいつも違います。

「津波は引き波から始まるので、引いてから逃げればよい」とは思わずに、地震が発生したら警報などに注意し、すぐに海岸から離れ高台などに避難することが大切です。

次回は「いざ」という時に…津波編(PART3)と題して、津波の後に起こる二次災害などについてお知らせします。

問合せ先 市総務課危機管理室
 防災交通安全係 ☎(22) 6600
 00内線221

昭和8年三陸津波の記憶

小松武雄さん(字三ノ浜)

三陸大津波が来た日は、雪の残る寒い夜でした。海沿いの自宅で家族と一緒に寝ていた当時14歳の私は、夜中の2時過ぎに大きな揺れで目を覚まし、とっさに津波の危険を感じて戸を開け、家族を起こして高台に避難しました。



その後20分から30分ぐらいで1m程度の波が押し寄せ、岸にあったイワシ漁に使う道具が全て流され、すぐ隣り岸では、波が3m程度にもなり、荷物を取りに家に戻ったため波にのまれた方もいました。

湾の向こう岸の船が、サーフィンのように波の上に乗れ、反対側の岸にたどり着いたと話す人もいたほどでした。

年月が過ぎた今でも、日ごろから避難経路などを確認しておき、津波が来たらまず逃げることを考えるのが一番大切なことだと思います。

○津波の怖さを実感したと語る小松さんは、「津波来襲に関する早い情報が欲しい」とも語っていました。